

ご家庭の安全度をチェックして、震災に備えましょう。



家電製品の安心情報 震災時の対策ガイド

あゝ地震 震災時の1・2・3 あわてずに、でもこれだけは忘れずに

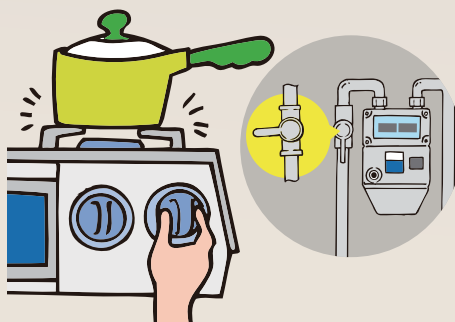
① 安全確保

「まずはわが身」と家族の安全を確保します。テーブルなどの下に身を伏せる、テーブルなどの脚をしっかりとつかむ、など。揺れがおさまった後に、窓や戸を開け、出口を確保しましょう。



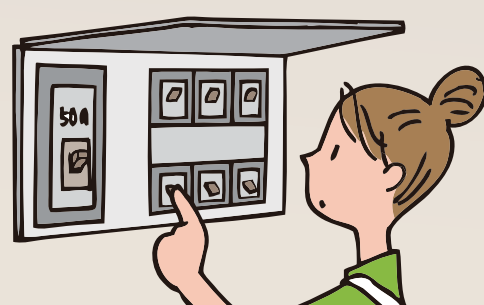
② 火の始末

小さな地震でも火の始末をする習慣をつけましょう。出火してしまったら、すぐに消火します。



③ ブレーカーを切る

屋外に避難するときは、火災防止のため必ずブレーカー（遮断器）を切ります。家電製品などが落下・転倒した場合も、通電・停電にかかわらずブレーカーを切ってください



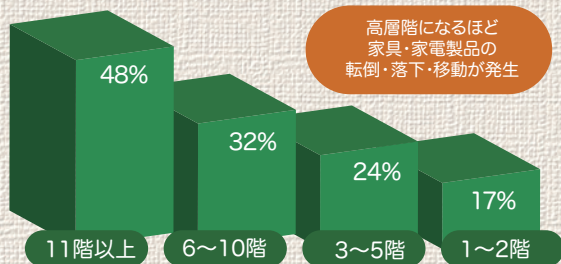
家電製品に転倒防止策を行なっているご家庭は3割以下

地震時に、室内で気をつけたいのが家具や家電製品の転倒・落下です。これらによって、下敷きになったり、けがををするといった事故が多くなっています。液晶テレビや冷蔵庫、レンジのような家電製品は必ず固定しておく、不安定な場所や高い場所に置かないといった注意をすることが必要です。



東日本大震災時の家屋階層別の家具類(家電含)の転倒・落下・移動発生割合

2011年・東京消防庁調べ

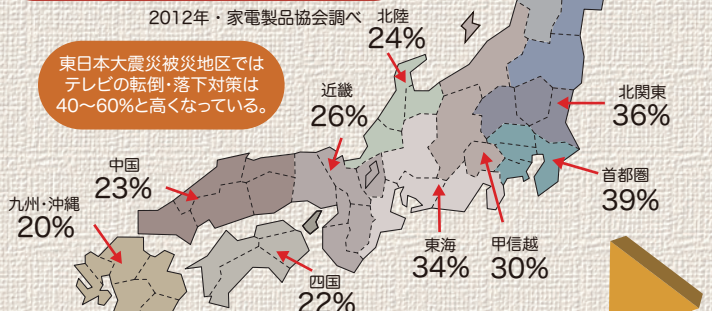


高層階になるほど家具・家電製品の転倒・落下・移動が発生

東日本大震災経験後のテレビに対する転倒防止策の実施率

2012年・家電製品協会調べ

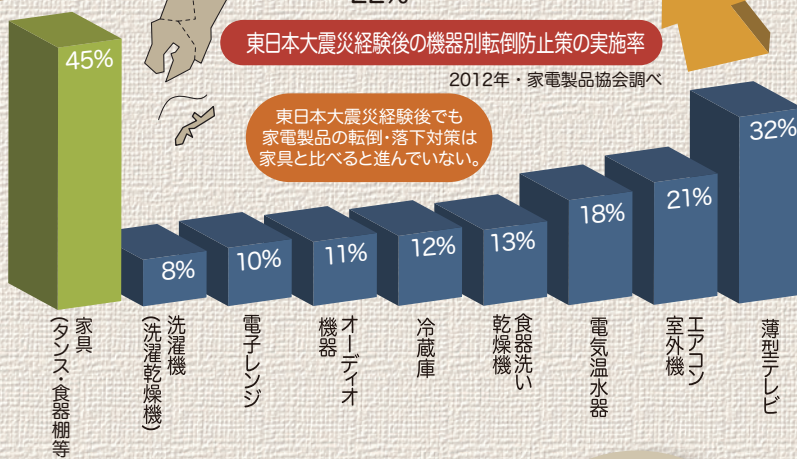
東日本大震災被災地区ではテレビの転倒・落下対策は40～60%と高くなっている。



東日本大震災経験後の機器別転倒防止策の実施率

2012年・家電製品協会調べ

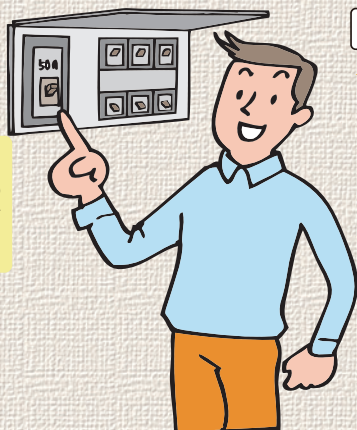
東日本大震災経験後も家電製品の転倒・落下対策は家具と比べると進んでいない。



万一の時に備えて、まず、チェック！

☑ ブレーカーの設置場所を確認しましょう。

電気火災を防ぐために、避難の際は必ずブレーカー（遮断器）を切ってください。



「震度5」以上で動作する感震機能付きブレーカーが発売されています。関心のある方は、お近くの販売店、電気工事店にお問い合わせください。

☑ 日ごろ使わない家電製品は、電源プラグを抜いておきましょう。



電源プラグを差した状態では、スイッチを切っていても電気が流れている製品もあります。

☑ 避難スペース・通路を家族全員で確認しておきましょう。

避難できる通路はありますか？
通路が落下物でふさがれることはありませんか？

☑ 必ず「取扱説明書」を読みましょう

安全な使用法については「取扱説明書」を確認してください。



家電製品の転倒・落下対策は万全ですか？

安全対策は確実に実行しましょう

テレビ

スタンドの転倒防止用ネジ穴を利用して、付属のネジで設置面にしっかりと固定してください。さらに市販の紐などを利用し、壁に固定するとより安全です。

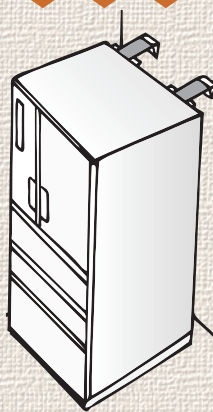


転倒防止の方法については取扱説明書の記載を参照してください。

冷蔵庫

転倒防止用ベルトなど(別売)で壁や柱に固定してください。

転倒防止ベルトを取り付ける場合は、壁や柱などの強度が十分あることを確認してください。詳しくは販売店などにお問い合わせください。



炊飯器/ジャーボット

冷蔵庫の上や高い所、落ちやすい場所に置かないでください。



電子レンジ

水平で安定した場所か専用台に設置してください。また上には物をのせないでください。

転倒防止金具(別売)で固定する方法については取扱説明書の記載を参照してください。



洗濯機

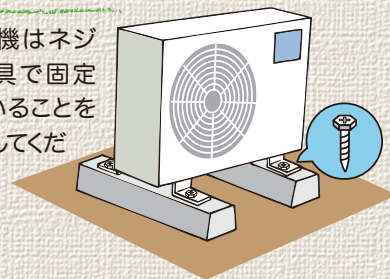
使わないときは、水栓を閉めてください。

オートストップ付給水栓ジョイントの取り付けも有効です。



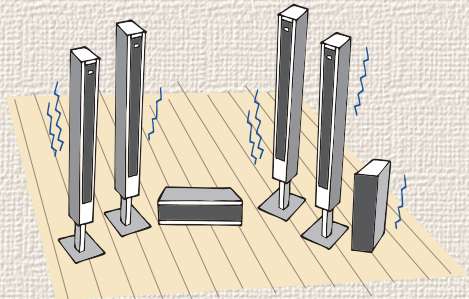
エアコン

室外機はネジや金具で固定していることを確認してください。



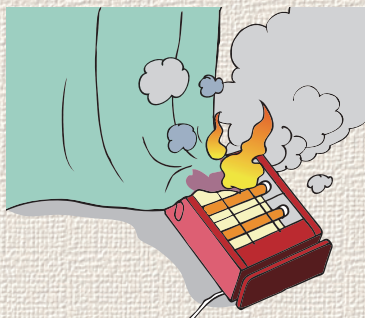
オーディオコンポ(トールスピーカー)

水平で安定した場所に設置してください。



電気ストーブ

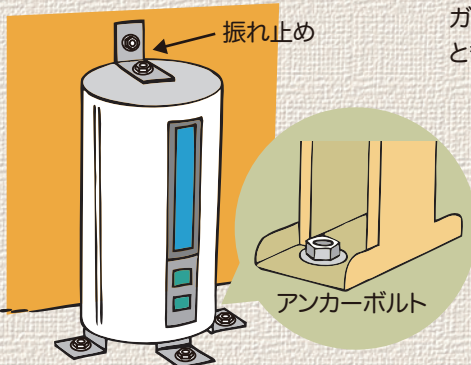
電気ストーブは、転倒再投入防止装置*付きのものをお勧めします。



「転倒再投入防止装置」とは
電気ストーブが転倒すると、通常は転倒時電気が流れない(通じない)安全機構で電源が切れますが、震災時には落下物などがその転倒スイッチに接触して復帰し、火災の原因になったことがあります。それを防ぐための装置が「転倒再投入防止装置」です。

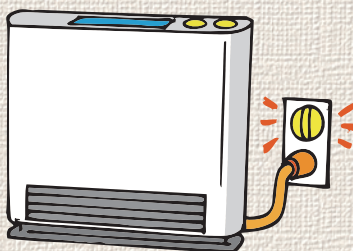
電気温水器

アンカーボルト、振れ止めなどを使用し、固定していることを確認してください。



ガス暖房機など

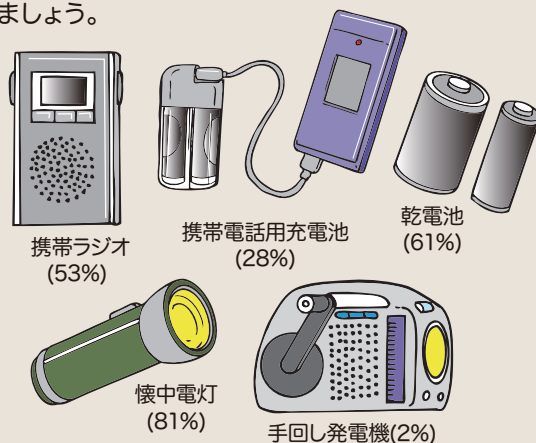
ガス暖房機などガス器具は使わないときは、ガスの元栓を閉めてください。



電気温水器の貯水活用(飲用には適しません)
貯水式電気温水器は、突然の災害時などいざというときに貯水タンクの水を取り出して生活用水として利用することができます。
※取水時の熱湯にご注意ください。

常備しておきたい家電製品

「非常持ち出し品」の中に、これらの家電製品を常備しておきましょう。
定期的に他の常備品と合わせて動作確認を行いましょう。



※()内数値は保有率(2012年 家電製品協会調べ)

震災に備えて確認しましょう。

ご家庭の家電製品の安全度を定期的にチェックしましょう。

チェック日

年 月 日

項目	確認項目	チェック欄
日ごろの確認項目	ブレーカー(遮断器)の設置場所を知っていますか？	☒
	ご使用の家電製品の取扱説明書を読み、安全な使用方法を知っていますか？	☒
	日常使わない家電製品は電源プラグを抜いていますか？	☒
	製品付属の転倒防止ベルトや市販の転倒防止製品(耐震マット・ジェル)を使用し、転倒防止対策を実施していますか？	☒
	落下しやすい高い場所に設置していませんか？	☒
	転倒防止ベルトなどを使用し、丈夫な壁や柱に固定していますか？	☒
	前面下部にある調整脚が床面まで降りて固定していますか？	☒
	冷蔵庫の上に物は置いていませんか？	☒
	水平で安定した場所に設置していますか？	☒
	転倒防止金具や市販の転倒防止製品(耐震マット・ジェル)を使用し、転倒防止対策を実施していますか？	☒
	近くに熱に弱いものを設置していませんか？	☒
	電子レンジの上に物は置いていませんか？	☒
	使用しない時は、水道蛇口の栓を閉めていますか？	☒
	水平で安定した場所に設置していますか？	☒
	アンカーボルトなどで、しっかり固定していますか？	☒
	室内機にガタツキはありませんか？	☒
	室外機はネジや金具を使用し、固定していますか？	☒
	スピーカーは水平で安定した場所に設置していますか？	☒
	各コンポーネントは落下防止を実施していますか？	☒
	落下しやすい高い場所に設置していませんか？	☒
	本体の金属部分が、流し台の金属部分などに接触していませんか？	☒
	ガスコンロなどの熱源から15cm以上距離を離していますか？	☒
	転倒スイッチは正常に動作しますか？	☒
	懐中電灯(LEDライト含む)を常備していますか？	☒
	乾電池や携帯電話用バッテリー、手回し発電機など非常用電源を常備していますか？	☒
	携帯ラジオや携帯電話など非常時の情報ライフラインは確保できていますか？	☒
	非常持ち出し品の動作確認を定期的に行っていますか？	☒

地震後の安全確認 (右記の項目を順番に) チェックしましょう。	①転倒・落下した家電製品や外観に異常がある製品はお買い上げの販売店にご相談ください。	☒
	②電源プラグのゆるみや抜けかけをチェックします。	☒
	③製品の安全を点検した上で、ブレーカー(遮断器)を入れます。	☒
	④電源スイッチを入れた時に異常(異常音・煙・異臭・動作不良など)がある場合は直ちにスイッチを切り、使用を中止します。異常の症状をメモした上で、販売店にご相談ください。	☒
	⑤「取扱説明書」や本体に表示されている注意事項をもう一度よく読み、正しく使用しましょう。	☒

製品の安全点検をしましょう。



愛情点検

自分で点検してみましょう。

日ごろの家電製品の状態を知っている方なら、異常の発見も簡単です。

- 製品に触って異常に熱く感じませんか。
- 焦げるような臭いや異常な音がしていませんか。
- 触ると電気(ビリビリ)を感じることはありませんか。

異常があれば使用を中止してください。

異常に気づいたらすぐに使用を中止し、お買い上げの販売店にご相談ください。もし不明な場合はメーカー(お客様相談窓口)にご相談ください。そのままの使用は事故や火災の恐れがあります。

節目には専門家による点検を実施しましょう。

例えば、購入後5年目といった節目には専門家による点検をお勧めします(点検費用などは販売店にご相談ください)。



発行元

一般財団法人 家電製品協会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3-7-1

霞が関東急ビル5階

電話 03-6741-5600

